

Blacksand

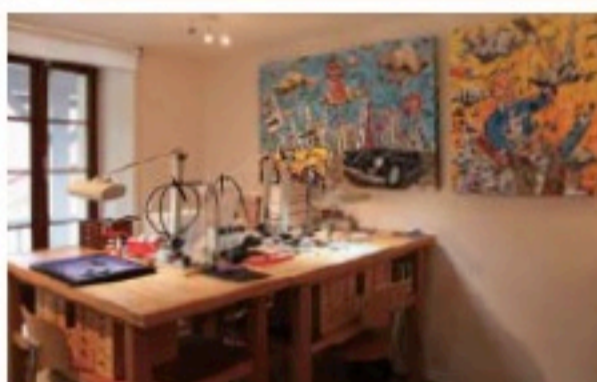
ブラックサンド

ジュネーブに誕生した高級ブランド

ジュネーブ郊外カルーージュに小規模な高級時計ブランドが2010年に誕生した。個性あふれるケースのフォルムや文字盤デザインなどで他との差別化を図るが、独立時計師の協力を得て、限定6個の異色の超複雑時計の開発も進行中だ。日本での展開もスタートする。



写真の5人が現在の総メンバーだ。左からコミュニケーション担当のイザベラ・トーマスさん、創業者のアラン・ムウワドさん、CEOのマイケル・フェルドバッシュさん、販売担当のパトリック・ジュンティニさん、製造担当のセドリック・ジョナーさん。



1ターの自動巻きがある。レディースの「コンティニューイティ」にはコアラと亀の2種類のモチーフが展開される。今日、独立時計師フレデリック・ガリノーさんの協力を得て、新ムーブメントの開発も進んでいるという。しかし当面の目標は「ブラックサンドを時計愛好家たちに印象づけること」。そのための超複雑時計の開発にも拍車がかかる。



「コンティニューイティ・コレクション」の「コアラ」。SOPRODA10ベースの自動巻きCal.1999（毎時2万8800振動。パワーリザーブ約●時間）で、ジャンピンパワーとディスク式分表示。

サウジアラビアで時計の輸入代理店を営み、また1972年にジュネーブで時計ブランド「ロベルジェ」を創業した一家に育ったアラン・ムウワドさんは、その安定したレールを走るよりも、自らの冒険に賭ける道を選んだ。それが、ブラックサンドだ。彼らのモットーはラテン語の「センプーフィデレス (Semper Fidelis)」。「常に忠誠を」を意味し、アメリカ海兵隊のモットーでもある。忠誠、それは機械式時計の伝統への忠誠にはかならない。

とはいえスイスには新旧を問わず、伝統を重んじる高級機械式時計ブランドは数多い。そこでムウワドさんは「ケース、文字盤、ストラップに至るまで細部へのこだわりが最も重要です。高い品質、正直さ、製品に対する自信はもちろんです」と語る。その言葉のように、ケースの形状や多層文字盤、そして紫色がブラックサンドを象徴している。現在、メンズの「ユニフォーミティ」には手巻きクロノグラフ（写真）と、COSC認定クロノメ



「ユニフォーミティ・コレクション」の「ストラトグラフ シングル・ブッシュ・クロノグラフ」。独創的なフォルムのケースは9つのパーツから成り、それぞれ交換可能で素材を変えて自由に組み合わせができる。リュウズはセラミックス製。独立系時計師フレデリック・ガリノーさんの協力を得て開発した自社専用のコラムホイール式手巻きクロノグラフ、Cal.2002（毎時2万8800振動。パワーリザーブ約50時間）搭載。ケース径46mm。